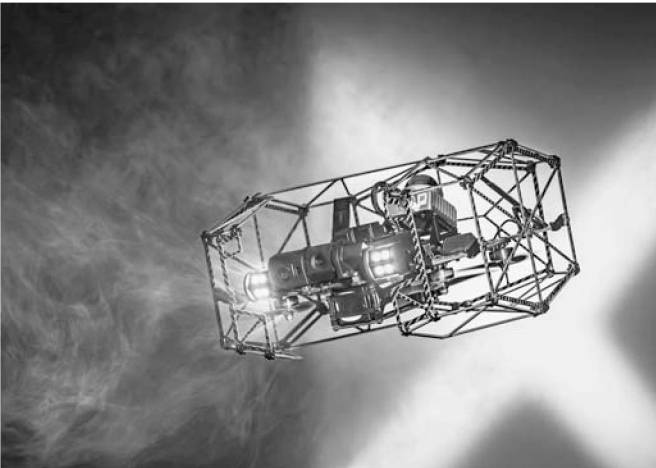


西華産業は発電所や製鉄所などを対象として、ドローンや監視システムを活用したスマート保安サービスを強化している。現場のDX（デジタルトランスフォーメーション）を後押しする。ドローン点検はテラドローン（東京都渋谷区、徳重徹社長）と共同で、UT（超音波探査）ドローンを使った従来のソリューションに加え、1月末から目視点検ドローンの販売を開始。アンモニア漏えいをカメラで可視化し、監視するシステムの提案にも力を入れている。

西華産業は3年前から、煙突やボイラー配管などの肉厚をUTドローンで測定するサービスを開始。人力によるUTをドローンに置

点検ドローン品揃え拡充

き換えることで、高所作業時に必要な仮設足場設置コストと工期を大幅に削減した。同社のUTドローン点検は、ケレン（磨き）モジュール搭載により、ケレンから肉厚測定まで一連の動作で対応できる。測定精度も高く、日本産業規格（JIS）の「JIS Z 355」を満たしている。



販売を開始した目視点検ドローン「テラクロス1」

小々大型のUTドローン計6機を保有。1チーム3人の計3チームで全国展開し、3年間で計200件のUTドローン点検を行ってきた。同社によると、発電所の自主点検で、設備や部品交換周期の見極めなどに活用するケースが多いという。

目視点検ドローンは、テラドローンと共同開発した国内製の「Terra Xross（テラクロス）」1。仕様は縦30センチ、横35センチ、高さ25センチ、重量約1・8キログラム。連続飛行時間は最大8分間で、有線給電システムにも対応している。

アンモニア漏えい可視化も

3DライダーやLED照明などを搭載し、屋内や暗所、粉じん環境下でも安定して飛行できる。撮影した画像や動画を、3D点群データにひも付けたデータ管理も可能だ。

西華産業計測機器部の渡邊悟課長代理は、「お客さまの課題に対して、新しいサービスを提案して解決していく。ドローン点検では、作業性を増したソリューションを検討していきたい」と意気込む。

ガス監視ソリューションでは、アンモニア漏えいをカメラで可視化するシステムを2024年10月から展開している。同システムは、監視カメラを製造するスペインのセンシアソソリューションズ製。同社にも対応している。

3DライダーやLED照明などを搭載し、屋内や暗所、粉じん環境下でも安定して飛行できる。撮影した画像や動画を、3D点群データにひも付けたデータ管理も可能だ。

西華産業計測機器部の渡邊悟課長代理は、「お客さまの課題に対して、新しいサービスを提案して解決していく。ドローン点検では、作業性を増したソリューションを検討していきたい」と意気込む。

ガス監視ソリューションでは、アンモニア漏えいをカメラで可視化するシステムを2024年10月から展開している。同システムは、監視カメラを製造するスペインのセンシアソソリューションズ製。同社にも対応している。